

第 408 回 松本歯科大学大学院セミナー

日時：2022 年 10 月 7 日(金) 16 時 15 分～17 時 00 分

場所：実習館 2 階セミナー室

演者：岡 暁子 氏

(福岡歯科大学 成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野 教授)

タイトル：歯の形成に影響を与える環境因子

小児歯科医が目指すのは、乳歯列・混合歯列を対象とした治療の先の健全な形態と機能を有した永久歯列の獲得である。この健全な永久歯列の獲得のためには、歯の形成と萌出が正常に行われることが重要となる。これまでに歯の発生メカニズムが紐解かれ、歯の発生に重要な遺伝子とそのシグナルネットワークが明らかになってきた。一方で、様々な環境因子が歯の形成に与える影響については、十分な理解ができていない現状がある。

近年、小児歯科領域では、第二乳臼歯や第一大臼歯については、エナメル質形成不全や萌出異常が以前より観察されるようになってきていることに注目が集まっている。これらは、HSPM(Hypomineralised Second Primary Molar) , MIH (Molar-Incisor Hypomineralization)と呼ばれるが、その原因は明らかになっていない。HSPM, MIH は、左右非対称で一定の発症パターンを示さず、発症頻度は約 20%程度ともいわれることや当該歯の歯冠部歯質の石灰化が胎生期後期から出生後早期であることから、出生前後の何等かの環境因子の関与が原因と考えられている。

本セミナーでは、HSPM、MIH に次いで新しく報告されている第一大臼歯の歯根形態異常を呈する MIM (Molar-Incisor Malformation)の自験症例の基礎的解析を含めてお示しし、歯の萌出メカニズムに影響する環境因子について、小児歯科医としてこれらの疾患に対してどのように対応できるのかを考察してみたい。

Matsumoto Dental University
Graduate School of Oral Medicine

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,
Nagano 399-0781, Japan

略歴：

- 2001年 九州大学大学院歯学研究院修了（歯学博士）
- 2001年 九州大学歯学部附属病院 研修医・医員
- 2004年 南カリフォルニア大学 歯学部 研究員
- 2007年 九州大学病院 小児歯科 医員
- 2008年 日本大学歯学部解剖学第2講座 専修研究員
- 2009年 福岡歯科大学 生体構造学講座機能構造学分野 医員
- 2010年 福岡歯科大学 生体構造学講座機能構造学分野 助教・講師・准教授
- 2022年 福岡歯科大学 成長発達歯学講座成育小児歯科学分野 教授

現在に至る

担当：小林 泰浩 （総合歯科医学研究所・硬組織機能解析学）